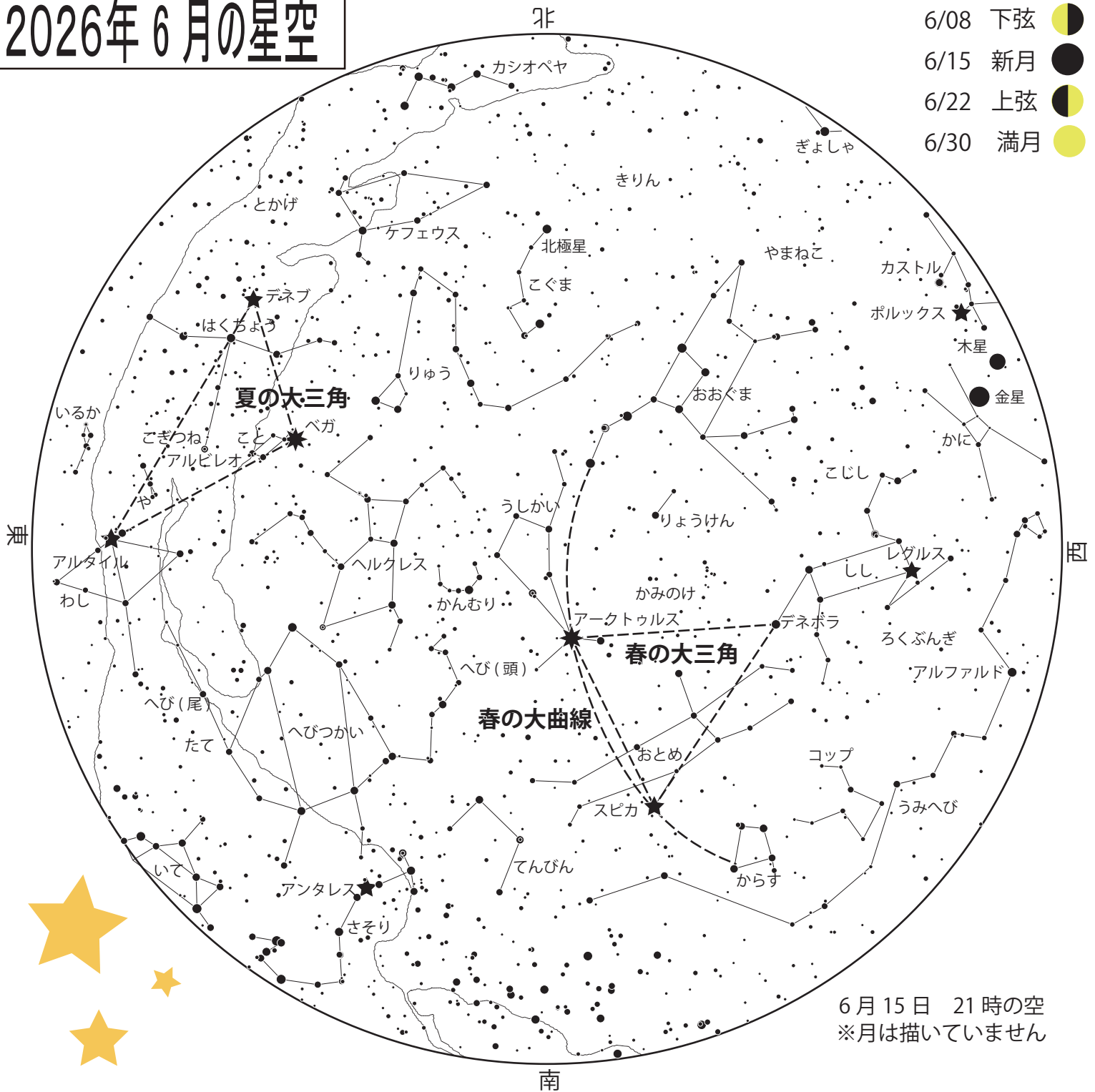


姫路で見る 2026年6月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 6/08 下弦 
- 6/15 新月 
- 6/22 上弦 
- 6/30 満月 



6月15日 21時の空
※月は描いていません

日の入り後、暗くなった西の空には**金星**と**木星**が明るく輝いていて、9日には最接近します。**水星**は16日に「東方最大離角」を迎え、夕方の空で観察しやすくなります。昼が最も長くなる**夏至**は、6月21日です。日の入りの時刻が最も遅くなるのは、6月末頃です(姫路:19時20分頃)。

空を見渡すと春の星座が西に傾き、東からは夏の星座が顔をのぞかせています。北の空高く、ひしゃくの形をした7つの星の並びの「北斗七星」が見つかります。ひしゃくの柄のカーブ(「春の大曲線」)を伸ばすと、オレンジ色に輝く**うしかい座**の1等星**アークトゥルス**が見つかります。熊の番人という意味で、**おおぐま座**を追いかけているように見えます。日本では、麦の収穫の頃に日没の空高く輝くことから、**麦星**と呼ばれています。カーブの先には、白く輝く**おとめ座**の1等星**スピカ**があります。尖ったものという意味で、靴の裏に取り付けるスパイクの語源といわれています。

東の空からは、夏の星たちが昇ってきました。**こと座**の**ベガ**は七夕の物語に出てくる**織姫星**、**わし座**の**アルタイル**は**彦星**です。2つの星とはくちょう座の**デネブ**をつないでできる「夏の大三角」は、夏のシンボルです。